

令和7年度まちづくり懇談会内容

日時：令和7年12月4日（木） 18：00～

場所：近藤地域コミュニティセンター

出席者：10人

- 1.開会
- 2.町長説明
- 3.懇談
- 4.閉会

【懇談・そのほか質疑など】

■ニセコ国際高校の運用コストシミュレーション	
町民	<p>①新たにできる「ニセコ国際高校」は、町立のままか。</p> <p>②「ニセコ国際高校」になったら、ランニングコストはどの程度増えるか。</p> <p>③②の場合、実質町の持ち出しはいくらか。また、今後どのくらい増えるのか。</p> <p>④雇う人も増えるとのことだが、人件費含めたコストは増えるのか。</p> <p>⑤入学者数の変化（町収入の増減）も踏まえたシミュレーションをすべき。</p>
教育長 副町長	<p>①「ニセコ国際高校」は今の「ニセコ高校」と同じ町立のままだ。</p> <p>②参考に今の定時制、ニセコ高校の場合は7,000万から8,000万だ。</p> <p>③実質町の持ち出しは7,000万くらいだ。そこから増加は現在シミュレーションをしているが、億はいかない。</p> <p>④人件費含めたコストはシミュレーションしているが、今はまだ確定していない。7,000万から8,000万増える予定だ。</p> <p>⑤入学者数の変動も加味し、定員数の8割でシミュレーションを出している。寮の収入含めて運営費で未確定のところもあり、来年度に向けてシミュレーションを進める。</p>
町民	<p>コストシミュレーションについて、先に建物作って後追いで計算はお粗末ではないか。普通、事業はコスト試算からスタートする。目標だけ掲げられ、コスト含めて10年、20年後にどうなるかが説明できないなら、高校運営は上手くないかない。</p>
教育長	<p>シミュレーションを行うのに不確定な要素はあった。ただ、定時制から全日制になってもこれまでとランニングコストがほぼ変わらないというシミュレーションはできていた。一方で、寮の維持費が確定しておらず、プロポーザルを行って想定より高くなった。寮の維持費で高くなった部分は、基本的に入寮費で対応し、町の持ち出しがないようにしたい。</p>
町民	<p>「ニセコ国際高校」への投資は、少なくとも子どもたち、町民にもリターンがあるというところから話を始めるべき。お金をかける意味があるのか。進学に</p>

	特化するでもなく、就職も支援する。誰でも受け入れる方向で進めるのか。
教育長	「国際教育」と「起業家教育」を軸に進め、これらのテーマに興味関心がある方に入学頂けるようにする。
総合教育課	(追加回答) 近年のニセコ高校は、町負担として年間3,000万円程かかっている(投資的経費除く)。ニセコ国際高校(令和11年度以降)においては、不確定要素が多く、変動が生じると予想されるが、町負担として年間7,000~8,000万円程の増加が見込まれている。

■ニセコ国際高校における地元からの入学	
町民	①ニセコ高校に入学した生徒のうち、今年度は何人がニセコ出身か? ②ニセコ出身でも入れなかった子がいると聞いた。ニセコ国際高校になると、今までよりもニセコの子が入れなくなる。ニセコの子をはじめてまで高校改革をやるべきなのか。町立の学校は、ニセコの子どもたちの受け皿になることも大事だ。地域枠はないのか。
教育長	①今年度はニセコ出身は10人。 ②地域枠はない。推薦入試でチャレンジしてもらうか、一般入試で入ることとなる。今後、中高連携など、地元の中学生が出願したときに有利になるような制度は検討する。
町民	優秀な生徒を集めたら、ニセコ出身の子がいないということにもなりかねない。現在のニセコ高校は、地域の子の受け皿としてあった高校だった。ニセコ国際高校にニセコの子が通うメリットはあるのか。
教育長	地元の子がニセコ高校に通う場合、サポートや補助を考えている。(R8年12月4日時点で) 予算計上していて、最終的には議会の承認で決まる。町外から来る人(寮生)にばかり補助を充てている指摘はあった。

■ニセコ国際高校入試	
町民	①ペーパーテストはするのか。 ②入試に地元枠はないのか。
教育長	①一般入試で学力検査も実施する。 ②地元限定はないが、近隣の子どもという点で通学区域規則で、地域外から来る人を一定の割合にする。町議会でも話してきたのは、「高校を残したい」ということ。そのために様々な背景をもつ子に入りたいと思ってほしい。希望者が増えて入学できない子が出てくるのは高校入試の制度上仕方がない。
町民	道立高校は学区枠があり、道外の生徒は基本的に少ない。町立なのにその枠を外すのはどうなのか。日本の国立大学が留学生ばかりになって、日本人が入れない状況と同じではないか。

教育長	少子化なので、学生を外からも入れないと定員数の半分以下になる。近隣町村には間口に余裕のある高校もある。道内外から生徒を入れて、多様性を踏まえ、学校を残すために必要なこととしてやってきた。
-----	---

■ニセコ国際高校の目標、競合	
町民	目標はなにか。ライバル校はどこか。
教育長	ライバルは意識していない。これまで取り組んできたことを中心に、特色が出る学校になり、出願者が増えてきた。
町民	何をもって目標が達成したというのか。
教育長	ニセコ国際高校として70人に定員を増やし、毎年定員を満たすほど集まって、卒業した人が満足できる。かつ、町民も良かったと感じて頂くのが理想。定員が集まるかが一つの尺度と考えている。
町民	1、2年ではなく、10年などの（長期）戦略はあるのか。
教育長	10年、20年と定員を維持していく取り組みは行っている。説明会の感触でも次年度は70人はいく想定。落ち込む想定はしていない。

■高校寮	
町民	都会では、生徒が少なくなることを見込んで別施設としての活用をあらかじめ設計に盛り込んでいることもある。新しい寮は、例えば将来的に高齢化施設としても使えるのか。
教育長	建設時にも同様の指摘があったが、大学生インターンでの利用も検討している。

■ニセコ国際高校の継続判断	
町民	高校の定員をこれまでの2倍弱に増やし、十数億のお金をかけるなら、きちんと見直しのボーダーを設定し、10年後でもいいので、できなかつたら抜本的にやり直す必要があるのではないかと。廃校までは言わないが、見直し議論が出来る基準を作っておいたほうが良い。目標ばかりでなく、最低限の基準を作るべき。
教育長	仰る通り。基本的に定員に対し応募が40人切ることになれば、見直し検討を行うことを考えている。
町民	見直しの基準について、文章として出すべき。5年連続で志願者が40人を切ったら規模縮小する、閉校に向けて動く等考えるべき。最低限のクリア目標を決めておかないと誰も責任を取らない。全部反対とは言わないが、現状のまま背中を押したとなれば、その時の町の背中を押した人たちは何を考えていた

	んだ、となる。口約束ではなく、基準となる投資対効果が得られなかったら見直す議論を始めるなど、公約として出すほうが良い。
教育長	これまでは学生数を増やすことを意識してきた。見直しの基準を決める指摘については理解でき、今後検討する。

■高校寮の受入れ人数	
町民	寮生と自宅生の人数、推薦と一般入試の人数は公表されているか。
町長	枠に関していうと、普通科ではなく総合学科になるので、道で一区になる。地域枠は制度的にない認識。実際には、寮に限度があるので物理的に入寮できない。寮は最大で100人程度なので、全校生徒210人に対して半分が寮生、半分が通学生になると考えられる。
町民	入試で寮生と通学生の操作があるのか。
教育長	ない。これまでの寮生と通学生の比率（実績）を見て判断した。また、通学費を補助する等の通学生を増やす取り組みもしてきた。
町民	寮生になる可能性のある人は、受けるなということか。
教育長	出願前に寮の定員はあらかじめ伝える等、入れない可能性があることを伝えたいうえで受験する、しないを判断いただくようにしている。

■ニセコ国際高校の目指す人材像	
町民	3人の子どもがいる。ニセコ高校に入る話ばかりしているが、どのような人材排出を目指しているのか。
教育長	シビックプライドを持ったグローバル人材の育成を目指している。シビックプライドとは、地元に着愛を持つということ。3年間ニセコで過ごした経験をプラスに捉え、卒業後も町外から応援してくれる人になってほしい。また、国際教育も行っており、海外大学に進学や留学もできる。世界に羽ばたけるような人材を育てたい。
副町長	起業家教育も行っていて、ニセコ高校の中に小樽商科大学のサテライトキャンパスがある。地元企業が支援してくれ、働きながら学業もできる。

■私道除雪補助	
町民	市道除雪の助成金は、町規則で3件集まれば組合を設立でき、補助申請ができることになっている。家の近くに2件増え、3件になったので役場に申請に行ったが「既存で隣にある組合に入ってほしい」といわれた。ただ、既存の組合はすでに上限額の50万円に達していて、我々が加入することで、補助金が出るにもかかわらず、除雪費は高くなる。結果、その既存の組合に加入申請したが否決された。組合の新設を都市建設課に申請しているが、なかなか叶わな

	い。条件は整っているにも関わらず、窓口では常に突っぱねられていて、補助金を出したくないというところが前面に出ているようにしか感じられない。住民サービスとしてどうなのか。
副町長	調べてみるが、事業者の人手不足も関係しているかもしれない。私道の補助は最初から完璧な制度ができていたわけではなく、運用しながら徐々に決まっております。また成長過程。財政状況なども見ながら行っており、予算も青天井でやっていくのも難しい。内部で議論していかなければならない。
町長	ご意見をいただいて、公平性を担保したうえで見直ししていく必要はある。ほかの町村長とやり取りをしていると、私道除雪の補助をしているところは無いと聞く。人手が不足している状況がある中、私道の除雪を補助することが当たり前と思ってもらえると、増やすこともやりにくい。これまでにも相当やってきているということは承知いただきたい。
都市建設課長	(追加回答) 加入により、除雪費の一人当たりの支払いが高くなるかは、除雪業者の見積りを見ても一概にいけない。組合の加入者が増えることにより、一人当たりの負担額が減る場合もある。この度の既存団体へ加入を勧める理由は、この制度を悪用し、大きな団体を分けて補助金を多く取得しようとする人もでるためである。補助に関しては、既存団体とも慎重に協議をおこない決定したいと考えている。

■スキーリフト券

町民	小学生の子どもは、格安シーズン券があって大変ありがたい。ただ、子どもだけでは当然スキーへ行けず、大人も一緒に行く。大人には、1日券1枚無料というのが配られたが、隣の倶知安町では、町民はシーズン券を半額で購入できる。
教育長	ほかの地区の意見も聞いていると、1日券よりも時間券の方が良いという意見もある。事業者と検討する。
町民	スキーをしている人はどういったリフト券の使い方をしているのか、実態を把握して欲しい。
町長	リフト券については事業者から協力頂けないと進めるのが難しいこともある。宿泊税の使い方を検討する中、このような意見を受けて議論していく。紆余曲折ある中で、子どもに対して手厚く補助しようと進めてきた。一方、リフト券が高く地元の人たちがスキー場を使い難いことは認識していて、全体のバランスの中で補助について見極めていく。

■町有地の利活用

町民	有島地区の事業者による町有地活用の件は寝耳に水だった。今日の話聞いて決定事項ではないと感じた。駅前のでんぷん倉庫も気づいたら食品倉庫になっており、またアンヌプリの見返峠の町道も事業者の開発対象地域に含まれていた。実際に町民の財産である町有地が知らないところで勝手に活用検討など、進められていることが増えた印象がある。もう少し早い段階で町民にオープンすることはできないのか。
副町長	企業誘致に関してはこれまでも力を入れて取り組んでいて、それによってある程度人口が保たれて、微増傾向にもなっている。企業とやり取りをし難いと感じるのは、先方にも都合があり、タイミングをみないと誘致できないことがある。従って町民の信託を受けた町長が責任を持ってやってきたということも多かった。ルピシアはニセコ町に本社があり関連事業者含めると町内で一番雇用が多い会社。八海山も来てくださり、ありがたいことにニセコのブランドを高めてくださっている。今回の有島は、地区住民との話し合いの中で、誘致の方向性も出てきた。段取りして取り組んでいたところではあった。町長が新しくなり、町資産を活用する際はある程度公開した方が良いといった意見が町長へ寄せられている。有島の件も、事業者からはR8年4月から着工したいと要望があったが、そうはならないとの話をしている。町有地について、もう一度整理する状況になっている。町のルールとしては、一定以上の町有地を売り貸しするときに議会にかけ承認をいただくことになっている。一定規模に当たらないものは、町長の判断で執行することができる。これまでの運用も規則上違反してはいないが、まちづくり基本条例で公開の前提がある中、なんらかの形で町民へ意見を聞いてルール化をしていったほうが良いと個人的には思っている。
町長	企業誘致するにしても、どういったあり方が良いか整理するところから進めている。今回の有島の件に関しても、4月着工は難しく、もう一度内部で検討するところから始めたいと事業者には伝えている。また、アンヌプリの「等価交換」に関しては、最終的に議会承認が必要。すぐに議会にあげるものではないと認識している。地域の意見を聞きながら進めることが重要。リフト券や除雪の助成をやってほしいという話がある中で、企業が増えることは税収も増えることになる。誘致しないで開発もしないというやり方もあるが、今人口も企業も微増している中、その歩みを止めてしまうというところには疑問がある。話し合いを丁寧にしながら進め、町が発展していくことに対してブレーキを踏む必要はないと考える。

■町有地以外への企業誘致

町民	町有地じゃないところに企業が来たい場合はどうなのか。
町長	景観条例や建築基準法はあるが、他に制約するものは特にない。

町民	大阪で土建をやっている人が、自治会の反対が収まらない限り建物が建てられないことがあると言っていた。
副町長	ニセコでも景観条例に住民説明会を行うことが書かれていて、事業者さんにお願ひして住民説明会を実施している。ただ法律はないので、建物を建て罰金だけ払うということもあり得る。ニセコの場合、景観条例があり、住民説明会を行うことを義務として書いていて、地域住民からの意見を総合的に判断し、町長が開発を許可するか決めている。

■建築物	
町民	元町で使用禁止した建築物について、増築で違反になっている部分を壊していると聞いた。
町長	景観条例の範囲に入らないので、申請は町ではなく道に提出される。今の法令の中では、町が介入することはできない。

■開発関連	
町民	アンブプリの「等価交換」の話が出ている町道は、バックカントリーエリアと重なっている。開発して、外部から資本を呼び込むことで町が発展していくこともあって欲しい一方で、その根幹にはニセコが良い場所だということがある。背景には自然、それを楽しめる環境、ブランドが存在している。その破壊に繋がることは歯止めをかけなければいけない。今回の等価交換を受けなければ、結果として開発にある程度歯止めをかけられる状況。受ければ開発が進み、ニセコの魅力が薄れてしまうことを理解してほしい。
町長	具体的な案件が出てきた際は、総合的に判断する。町有地は町や議会で判断できるが、民有地は介入できない。また、民泊が増えていることにも、現状法律の範囲で制御することはできない点から危機感を覚えている。景観条例や特区のような取り組みで抑制、あるいは緩やかに誘導できないかを検討している。
町民	民泊に対して、具体的に何ができるのか。
町長	町有地ではない場合、何ができるかを考えないといけない。京都府では、来年度空室税を導入する話がある。町の土地や建物を個人へ高く売らないで、というお願ひはできるかもしれない。住まいを町で活用してほしいと申し出てくださる方もいるので、困ったことがあれば町に相談してほしいという発信はしたい。

■近藤別荘地

町民	近藤の別荘地に住んでいる。「近藤協会」という団体で、有志の方が会長をしてくださっていたが、住む人も増えてきたので体制を立て直そうとしている。最近事業者が購入した別荘地の奥のほうで開発が進んでいて、大きいトラックが通り、道がボコボコになっている。噂レベルだが、その事業者が同じく購入した私道の通行料を取る話も出ているようだ。住んでいる人はどうしたらよいか。分譲地であるので、まだ住民が増えることは考えられる。水道の取り合いになるのではないかとということも不安に感じている。協会として、事業者とどうやりよりしたら良いか知恵を借りたい。
町長	民-民の話であり、町が介入することが出来ない。町でも弁護士の相談の機会を設けているが、専門家に相談してはどうか。

■再エネ補助

町民	エコキュート給湯器を入れるのに補助が出るとのことで、R6年に再エネ補助金を活用した。しかし、補助をもらう段階になった時に、聞いていた補助金額が変わるといわれた。金額変更が想定されるならば、その旨を知らせて欲しかった。去年も本件は副町長に話をし、調べるとのことだった。
副町長	初めから金額変更について書いておけばよかったが、初めて実施したので役場でも金額変更は想定していなかった。ニセコ町以外でも補助が出るのが分かり、重複してはいけないので変更という形になった。

■広報ペーパーレス、広聴機能

町民	広報ペーパーレス化、窓口のキャッシュレス化、スキー場の時間券の助成をしてほしいと去年も言った。何がどこまで進んだのか、わからない。情報をオープンにしてほしい。
企画環境課 参事	広報ペーパーレス化について、広報は現在リニューアルを検討している。それに合わせて、広報誌に挟んでいるチラシを広報紙面に統合できないかを考えている。
広報広聴 係長	チラシの電子化については、R7年10月号分からホームページでも公開している。一部公開できない文書は、チラシのみで配布している。
町民	紙媒体の配布は、班長が大変だ。住民も増えているし、知らない人もいる。電子版で見るので紙媒体は必要ない、という選択肢もほしい。全国に情報を開放して良いか、という点含めて電子化に向け試行錯誤してほしい。
企画環境課 参事	話をオープンにすることに関しては、町長とも検討を進めている。ここで話した内容は広報でまとめ、エクセルで役場各課に共有し、広報誌でいくつか紹介している。R7年度分から、プライベートな内容を除いて公開を目指す。
町長	頂いたご意見が実現できるのか、できないのか。できないことはできない、と

	お伝えする必要があると考えている。町として見直したいことの一つ。このまちづくり懇談会も含め、日ごろから役場にメールなどでたくさんお問い合わせが来ている。基本的に頂いたお問い合わせには返信しているが、ご意見があったことを発信することで、他の人の問題が解決することもあると思う。ホームページのリニューアルも検討しているので、「見える化」していきたい。
--	---

■キャッシュレス化	
町民	キャッシュレス導入の要望は多いか？
町長	ご要望をいただく機会も多い。
町民	倶知安町はキャッシュレスを導入し、すごく便利だ。財布も携帯電話も持ち歩かないことが増えた。利便性を考えると導入したほうが良い。

■地域おこし協力隊の町内会加入	
町民	地域おこし協力隊が多く町に移住して来ているが、割と町内会に入ってくれない。「地域に貢献したい」とわざわざ立候補してきているのだから、町のほうで親交会長に案内するまで面倒を見たほうが良い。コロナ禍を経て、対面の会合などがなくなって、お互いに誰も知らないような地域になっている。町と自治会が話をして、新たに町に来た人を紹介をする道筋があったほうが良い。
町長	協力隊への案内は確認する。町内会のあり方、体制、課題などは様々だが、少なくとも協力隊が入った時に町内会について案内はするように進めたい。
町民	町から「絶対に入るように」とは言えないかもしれないが、橋渡しくらいしても良いのではないか。
副町長	過去には橋渡しを行っていたが、会費が高くて負担が厳しいなどの意見があり明確に「入ってほしい」と言えなくなった。基本的には自治会に入ってもらいたい姿勢は変わらない。
町民	加入率が半分を切ると町内会も機能しにくい。(町内会への) 不要論などが出てきてしまうので、維持するにはある程度橋渡しする心がけをしてほしい。
副町長	心がける。

■職員の対応	
町民	役場職員の対応について、近藤小学校前の横断歩道のところにあるポールがグラグラしているので役場に修理してほしいと言ったが、今も何も対応がされていない。子どもがもたれかかったら側溝があるので危ない、という話をR7年春にした。また、宮田のロードニセコから小花井に抜けていく道路、民家の車庫前のU字溝を直したいが、道路が低く被っているグレーチングが高くて引っかかるという話も地域の方が役場に伝えたようだが何も対応さ

	れていない。電話をかけても担当が居ないと言われ、後から連絡くださいと言ったが、連絡もないとのこと。担当から対応についての連絡もないのは、あってほしくないことだ。
町長	承知した。

■ペーパーレス化	
町民	議会でもペーパーレスは進めてほしいと話をしている。コストを抑えるためにも進めてほしい。5月に配られる予算書「もっと知りたいことしの仕事」も全戸に必要なのか。1冊100円、200円程度で興味のある人が買えば良いのではないか。結構な予算がかかっている。電子化していないのか。
町長	「もっと知りたいことしの仕事」は一部ネットで見られる。全ての事業の予算が書いてあるので、入札事業者などが見てしまうと金額が分かってしまうので、そこへの配慮があると推察する。

■近藤地域コミュニティセンターに関する要望	
町民	近藤地域コミュニティセンターは第二選挙区になっている。参議院選挙の際も立会人からすごく暑かったと言われた。投票所であり、避難所にもなっている。エアコン設置を来年度予算に組み込んでほしい。Wi-Fiも入れてほしい。

■望洋団地の除雪費	
町民	望羊団地で改修工事をしているが、住んでいた人が一部団地に戻ってきておらず、現在住んでいる人の戸数割で対応している除雪費が増えるとのことだった。
副町長	転居した人か。
町長	団地に戻る前提の方じゃない可能性もある。
町民	現時点で住んでいる人で対応していて、一人当たりの負担が高くなっているようなので、何か検討してほしい。

■道路の速度制限についての要望	
町民	前町長に議会でも話していた66号線から国道へ抜けるパチンコ街道について、結局は手立てがないという結論だった。道道まで40kmという速度制限を設ける、追い越し禁止にする、大型貨物禁止にするなど、何か対応できないか。事故が起きないと何もしない、ということではいけない。いつか事故が起る。回答は求めないので対応を進めてほしい。

